

【研究名称】

変形性股関節症患者の患者立脚型歩容満足度とその原因の調査

【研究目的・意義】

変形性股関節症(Hip osteoarthritis、以下 HOA) は関節の軟骨の変形や消失、軟骨下骨の象牙質化などにより関節破壊が生じる疾患です。本邦において多くは二次性で約 80%に股関節臼蓋形成不全や先天性股関節脱臼などの既往を有します。HOA は症状の進行に伴い、疼痛、筋力低下、関節可動域制限(以下 ROM)、脚長差などの身体機能障害の影響で(歩容を含む)歩行能力の低下、ADL、QOL を低下させるとされています。HOA や人工股関節全置換術(以下 THA)を受ける患者様の大多数は女性ですが、女性はその年代においても外見に対して意識が強いと報告されています。また THA に期待されることの一つに歩容の改善があり、患者は術前後にわたり、常に歩容を意識しているとの報告もあります。

HOA や THA 患者を対象とした先行研究では股関節機能や歩行能力など医療者側が客観的に評価した項目のものは多く見受けられるが近年、患者の主観を重視した患者立脚型評価も重要とされてきています。そうした中で生活の質や THA に対する満足度の研究は増加傾向にあります。しかし歩容満足度や患者自身が歩行のどの部分に着目しているかを調査した研究はほとんどありません。

本研究は HOA 患者が自身の歩容を観察する際にどこに着目しているかを明らかにすることを目的とし、歩容満足度と患者の主観評価の関連性について検討したいと思います。

【研究方法・期間】

研究実施期間：倫理審査委員会承認後～2024 年 12 月 31 日

調査項目：

- ① 基本属性：年齢・身長・体重・BIM
- ② 歩容満足度評価(10 段階法)と歩容の自覚的な評価内容

過去 7 年間の人工股関節置換術の術前評価で上記評価実施した患者様の情報を収集いたします。

【個人情報の保護】

本研究で得られた貴重なデータは学会発表で使用される場合があります。収集したデータに氏名は記載されず、個人が特定されるデータは使用いたしません。また、得られたデータを外部に提供することはありません。

【研究協力の辞退について】

この研究に協力を希望されない患者様は下記担当者までご連絡ください。研究に協力されない場合であっても患者様が不利益を被ることはありません。

地方独立行政法人市立吹田市民病院 リハビリテーション科 理学療法士 亀甲健太郎

TEL：06-6387-3311 (内線番号 2402)